

伴走型中小企業経営支援体制の実施状況等について

区は、適切な支援機関等と連携し、課題解決を図る「伴走型中小企業経営支援体制」の構築に向けた検討を進めている。

このことについて、ソフト面及びハード面における整備の検討状況を、以下のとおり報告する。

I ソフト面の取組（相談支援体制の構築）

1 試行実施の結果

(1) 概要

令和7年12月から令和8年3月において、伴走型中小企業経営支援（相談）を試行で実施した。試行実施においては、コーディネーターを配置し、相談窓口の開設、事業者との面談による課題整理、支援機関への接続、フォローアップ等を実施した。

(2) 実績

①相談受付

- ・相談窓口：平日19日間・土曜3日間（9時～17時）の窓口のほか、出張・オンライン対応
- ・支援事業者数：23事業者
- ・面談件数：37件（産業振興センター窓口14件、出張14件、オンライン9件）

②主な相談内容

- ・売上向上や販路開拓（SNSやホームページの活用等含む）に関する相談：13件
- ・創業初期の事業運営や事業計画に関する相談：6件
- ・その他、資金調達に関する相談や事業者間の連携に関する相談：4件

※なお、複数の課題を併せ持つ事業者も多く、販路開拓に加え事業計画の見直しや資金調達等の課題が複合的に見られた。

③支援結果

- ・相談の結果、事業計画の見直しや販促方法の改善、商品構成の変更など、具体的な対応への着手
- ・専門家等（中小企業診断士や社会保険労務士等）への接続
- ・補助金、融資、事業者間のビジネスマッチングへの接続

④アンケート実施結果（回答数：16事業者）

- ・コーディネーター対応の満足度（「満足」「やや満足」「どちらかというと満足」）：93.8%
- ・相談前の状況：「具体的な課題はわかっていたが、どう動けばいいのかわからなかった」50%
- ・相談後の状況：「外部の支援機関を活用しようと思えるようになった」31.3%、「課題が明確になった」18.8%、「今後の方向性が整理できた」18.8%
- ・今後のニーズ（「今後も継続的な経営支援を強く利用したい・利用したい」）：93.8%

(3) 分析

①成果

- ・事業者の多くが「課題は認識しているが行動に移せていない」状態にあり、本事業はその初動支援として有効に機能した。
- ・伴走支援を通じて、課題の明確化や方向性の整理が進むとともに、外部支援機関の活用に対する意識が高まるなど、事業者の思考整理と行動意欲の向上が見られた。
- ・外部視点による継続的な関与により、経営に対する不安の軽減や安心感の醸成につながる効果が確認された。

②課題

- ・伴走支援の範囲や終了の考え方が明確でなく、コーディネーターが案件を抱え込む可能性があることが示唆された。
- ・専門支援機関ごとの強みや活用場面の整理、連携手法の確立が不十分であった。
- ・デザイン、販促等の一部の分野について、適切に接続可能な支援メニューが不足していた。
- ・様々な手法による情報発信（事業周知）を行ったが、相談者が限定的であった。

③今後に向けた整理

- ・伴走支援の範囲や終了の考え方を明確化し、カンファレンス等を通じた支援方針の決定や支援区切り判断の仕組みを導入し、適切な支援管理を行う。
- ・コーディネーターを中心に、専門支援機関や経済団体、金融機関等との役割分担を整理し、課題に応じて確実に接続できる連携体制を構築する。
- ・デザインや販促等を含め、多様な事業者ニーズに対応できる専門支援メニューの確保・拡充を図るとともに、ビジネスマッチング機能の活用により支援の選択肢の幅を広げる。
- ・今後予定している産業振興センターの改修を契機として、より多くの事業者が利用しやすい環境を整備し、事業の認知向上と利用促進を図る。

2 令和8年度の実施内容（本格実施）

(1) 実施内容

①コーディネーターの配置

- ・認定経営革新等支援機関等において、中小企業の経営支援経験（3年以上）を有するコーディネーターを配置
- ・コーディネーターは、相談者との対話、課題整理、支援方針案の作成、専門支援への接続及び支援終了時の整理等の役割を担う

②相談窓口・伴走型経営相談

- ・原則として週5回相談窓口を開設し、事業者の経営や創業についての相談（出張相談及びオンライン相談を含む）を実施

③支援プロセスの管理及び方針決定

- ・相談内容及び支援経過を記録・管理するとともに、カンファレンス（区職員も関与）により支援

方針を決定

④専門支援機関等との連携

- ・課題に応じて専門家（中小企業診断士等）、経済団体、金融機関、経営者等へ接続・調整
- ・支援制度や支援機関の情報を整理し、複数の選択肢を提示

⑤ビジネスマッチングの支援

- ・ビジネスマッチングについて、ニーズ整理のうえ関係機関へ接続（取引交渉等には関与せず、初期整理及び接続に限定）

⑥支援の適正管理

- ・支援の継続・見直し・一区切りをカンファレンス等により判断し、支援の長期化や依存を防止

⑦成果把握・フォロー及び施策への反映

- ・支援終了時アンケート及びフォロー確認により効果を把握
- ・実績報告・分析を通じて課題を整理し、施策改善につなげる
- ・成果事例集を作成し、支援の効果を可視化及び広く周知

(2) 成果指標

①KGI（＝最終的に達成すべき目標）

- ・伴走支援終了後、区の継続的関与がなくても、事業者が自ら判断し、必要な支援を活用しながら、経営行動を継続できる状態に至ること。

②KPI（例）

- ・現時点で想定している指標は以下のとおりであり、今後の運用状況を踏まえ、必要に応じて精査する。

- ア 経営課題を理解することができた事業者の割合
- イ 次の行動に移すことができた事業者の割合
- ウ 外部支援を主体的に活用している事業者の割合
- エ 支援終了後一定期間の事業継続率
- オ 相談支援後の満足度
- カ 相談受付件数
- キ 成果事例集に掲載する成果実績件数
- ク 創業につながった事業者数

(3) 開始時期

- ・令和8年10月予定

II ハード面の取組（産業振興センターの改修）

1 現状と課題

- ・産業振興センターを中小企業支援の拠点とし、経営者や区民が集い新たな価値が生まれる場所とするため、令和8年3月に既存施設の改修に向けた空間デザインを策定した。
- ・その空間デザインをもとに、令和8年度は施設改修の設計、令和9年度以降工事を行う予定と

し、改修設計委託について入札手続きを実施したが、契約に至らず不調となった。

- ・これに伴い、設計業務の着手が遅れることから、改修全体のスケジュールに約半年の遅延が生じる見込みである。

2 今後の対応

- ・公募条件の見直しを行い、改めて設計委託の入札手続きを進めるとともに、スケジュールの精査・見直しを行う。※想定スケジュールは下記のとおり。

【当初のスケジュール】

令和8年度 改修設計及び1階の一部工事

令和9年度以降 全体改修工事

【変更後のスケジュール（想定）】

令和8年8月 1階の一部工事（変更なし）

令和8年度～9年度 改修設計

令和10年3月以降 全体改修工事